

○ 方々國分、北、南、東、西、  
各處、山、川、田、園、  
草木、花、鳥、魚、虫、  
無、一、不、備、有、也、

○ 乃、今、日、之、事、也、

又、其、方、向、也、

○ 乃、今、日、之、事、也、

乃、今、日、之、事、也、

○ 乃、今、日、之、事、也、

○ 乃、今、日、之、事、也、

乃、今、日、之、事、也、

[illegible]

五、日、本、の、文、学、

臨水何處  
 山色如畫  
 雲白猿啼

劉子厚

[illegible]

西月集

石之 白石 一 秋 龍 虎 斗 雲 龍 斗 雲 龍  
斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍  
斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍  
斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍  
斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍 斗 雲 龍

西貝

臨江府志卷之六

市例未用中

● 八ノ月廿四日  
此の日は、  
○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の

○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の

● 八ノ月廿四日  
此の日は、

○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の  
○ 田舎の

一 痛知事とては **大** なるものなり  
中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

一字

上は **大** なるものなり  
中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

上は **大** なるものなり  
中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

半

一 痛知事とては **大** なるものなり  
中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

上は **大** なるものなり  
中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

中上層の事とては **大** なるものなり  
是を明く其の事なり

54

乃

心もあきらめれば  
夢もあきらめれば  
夢もあきらめれば

[illegible]

子休而後至  
子何而後至

任のまゝに新眼の上迄書き留め給へ

竹田十太夫より中へる手紙  
人知れぬ道へ行く  
合点なりと云ふこと  
しるす

一、**心**

花老香殘夢已歸  
金風玉露正秋時  
白雲飛渡江天遠  
紅日斜沉海峽西  
一川煙草綠  
萬里暮山低  
歸心似燕雙飛處  
人在天涯  
獨倚樓西

一、治法宜早。年久者，長多難。



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

[illegible][illegible][illegible][illegible]

On the way to the

[illegible]

卷二 卯年

二月

[illegible]

[illegible]

一、修徳の如く  
一、忠孝の如く  
一、夫婦の如く  
一、兄弟の如く  
一、父子の如く  
一、君臣の如く  
一、朋友の如く  
一、郷党の如く



二月

一 時辰如く其のたれにても  
ちよとてあに子あたまのうら  
るるおとなるぬち

つて入

伊賀重吉

ちとてちとてたて

ちとてちとてたて

信よりきく外事村三可成重吉  
信力者重吉の利ありちとてたて  
信よりきく外事村三可成重吉

二月

伊賀重吉

一 時辰如く其のたれにても  
ちよとてあに子あたまのうら  
るるおとなるぬち  
ちよとてあに子あたまのうら  
るるおとなるぬち  
ちよとてあに子あたまのうら  
るるおとなるぬち

一十五挺くしとらふてふとらふて  
 我作此書本落抱てふとらふて  
 うふとらふてふとらふて  
 雲うふとらふてふとらふて  
 一十五挺くしとらふてふとらふて  
 我作此書本落抱てふとらふて  
 うふとらふてふとらふて  
 雲うふとらふてふとらふて

百

王桂芳

創刊

わがきくも書に  
ア月七の望日、主けぬ本、月十六日  
まぐちも所ていふ文は、  
北下より伝へるものとす。序文あり。  
しりし金糸とす。

一肉昆痛症  
此女患之  
今之入  
此症平甚

肉昆痛症、此方最  
神、至如、下、十、五、

二月

之

今日主何任

社會主義文化

一、西郷公の如く、  
上全以外に中絶を以て不  
可と爲す

一  
萬字上元

自  
山  
中  
古  
詩  
集  
卷  
之  
一

孝

東坡先生詩集

平水用高田灰燒石

伏中因重約  
 此後必不復  
 有也  
 丁巳年  
 黃子華

你川傷分我於大佛也上左金三雲  
 入空如亦為人教多主近川  
 夢古事年立瓦壁主二吾保習生  
 中至今个人取不女林收多修色以  
 乙丁子水木葉整樂雅工

中書所官

宣統元年四月  
奉旨 著  
宣統元年四月  
奉旨 著

一 內下各處...

宣統元年四月  
奉旨 著  
宣統元年四月  
奉旨 著

宣統元年四月

宣統元年四月  
奉旨 著

宣統元年四月  
奉旨 著

宣統元年四月  
奉旨 著

宣統元年四月  
奉旨 著

